

平成 25 年度 事 業 計 画 書

平成 25 年 3 月

財団法人 長崎県健康事業団

平成 25 年度 事業計画

平成 25 年度は、この度の公益法人制度改革により「公益財団法人長崎県健康事業団」として初年度を迎える。このため、事業の公益性、運営の透明性をこれまで以上に高めることが求められる。現行の事業を継続するのみでなく、新たな時代に即した公益目的事業の推進を行い、県民の公衆衛生の向上に、より一層貢献していく。

具体的には、県民の疾病予防・健康の保持増進、救急医療の充実、円滑な腎臓等臓器移植の推進を図るため、県や市町・長崎大学・県医師会等関係機関のご指導とご協力を得ながら高齢者医療確保法、感染症予防法・学校保健安全法・労働安全衛生法・母子保健法・原爆被爆者援護法等関係各法に基づき、健康診断事業や病理診断及び各種検査を行うとともに、救急医療情報システム運営事業及び腎不全対策事業を実施する。

(1) 健康診断等の普及・啓発事業

広く不特定多数の県民の健康診断の受診機会の拡大が図られるよう、県・各市町や地元医師会等と連携しながら、特定健診、各種がん検診、結核検診、学校検診、職域検診、先天性代謝異常検査、がん細胞等の病理検査などの健診検査を実施し疾病の予防対策や病気の早期発見等に寄与していくとともに、健診データを調査分析、研究を行い地域性や時代背景を踏まえた情報発信を行っていく。

なお、先天性代謝異常検査については、新たにタンデムマス方式を導入し小児の障害発生予防に貢献していく。

(2) 精度管理の充実と健診サービスの向上

質の高い、健康診断事業や各種検査を行うために、下記の項目を実施する。

健診・検査機関として、重要な個人情報を取扱うため、平成 24 年 11 月に更新された「プライバシーマーク」管理体制を維持し、職員への個人情報保護の教育・研修会等を開催し、さらなる個人情報の適正な取得・利用・管理に取り組む。

精度管理については、労働衛生サービス機能評価機構の優良認定施設として認定を受けており、今年度も各種研修会に技術職員等を参加させ最新の健診技術、人材の育成、機器の管理、システムの充実を行い質の高い健診に努める。

また、平成24年度から行っている検診機器のデジタル化を今年度で完了させ、受診者の被曝線量の低減化と診断精度の向上を図る。

長崎県より委託を受けた「がん検診事業評価及びがん検診精度管理事業」により、がん検診の各種データを整理・分析して各指標を作成するとともに、全国との比較分析を行い、県のホームページとリンクさせ公表する。

また、平成24年度から受託している「がん検診精度管理医師等研修会」の開催等の業務を行う。

当事業団で実施した「がん検診」の要精密受診者について、病院での受診状況を確認するとともに、未受診者に対し受診勧奨を実施する。

健診サービスの質の向上に努めるため、受診者に対して、ご意見やご要望の「アンケート調査」を実施しサービスの向上に努める。

(3) 救急医療対策の実施

「救急医療情報システム」の管理運営を行うとともに、救急搬送患者の状況を解析するため、救急搬送事後検証票のデータ入力・集計を行う。

(4) 腎不全対策の実施

協力医療機関・日本臓器移植ネットワーク等と連携して臓器提供について協力依頼を行うとともに、出前講座・街頭キャンペーン・臓器提供意思表示カードの配布等による啓発活動を行う。

(5) 普及啓発事業

結核予防週間（9月24日～9月30日）

結核予防のための、パンフレット・ポスターの配布、パネル・ビデオなどの資材貸出しなどを行う。

がん征圧月間（9月1日～9月30日）

がん予防のための、パンフレット・ポスターの配布、パネル・ビデオなどの資材貸出しなどを行う。また、ピンクリボン活動への協力を行う。

県民の「特定健診」や「がん健診」の受診率アップ対策として「がん総合デジタル検診車」を積極的に活用するとともに、各種広報活動を実施し受診率向上対策に努める。

(6) 「健診・検査年間計画」は、次ページのとおりである。

《健診・検査年間計画》

(単位：人)

健診・検査項目	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	実績	実績	実績	実績見込(a)	見込(b)	増減(b-a)
一般検診	255,703	243,533	243,730	254,570	259,360	4,790
特定健康診査	37,543	38,080	39,652	44,470	44,470	0
事業所健診	90,126	81,253	81,358	84,160	88,800	4,640
胸部検診(学校・施設)	23,486	23,812	22,004	21,510	21,670	160
胸部検診(結核・肺がん)	44,489	41,598	38,625	41,960	41,960	0
原爆健診	7,705	6,997	6,497	5,960	5,460	500
その他検診(学校・施設)	52,354	51,793	55,594	56,510	57,000	490
胃がん検診	30,203	29,240	26,728	28,160	28,580	420
子宮がん検診	20,427	19,513	18,555	17,760	17,860	100
乳がん検診	43,064	39,806	37,318	36,510	36,610	100
大腸がん検診	35,338	34,801	33,725	37,460	38,150	690
骨粗鬆症予防健診	2,747	2,638	2,904	3,210	3,210	0
腹部超音波検査	5,802	5,308	3,883	6,140	6,140	0
健診小計	393,284	374,839	366,843	383,810	389,910	6,100
前年比	-	95.3%	97.9%	104.6%	101.6%	-
病理診断	5,705	5,872	5,824	5,750	5,750	0
先天性代謝異常検査	13,260	13,306	13,270	13,480	13,480	0
検査小計	18,965	19,178	19,094	19,230	19,230	0
総合計	412,249	394,017	385,937	403,040	409,140	6,100

資金調達及び設備投資の見込について

(1) 資金調達の見込について

長期借入金

借入先	金額	用途
市中銀行	50,000,000 円	検診車デジタル化他資金

(2) 設備投資の見込について

当期中の重要な設備投資

設備投資の内容	予定額	資金調達方法 又は取得資金の使途
肺がん検診車（3台） デジタル化		県費補助金 32,520千円
乳がん検診車（2台） デジタル化	65,040,000 円	長期借入金 30,000千円 自己資金 2,520千円
乳腺超音波 検査機器導入		
先天性代謝異常検査 タンデムマス機器導入	27,420,000 円	長期借入金 20,000千円 自己資金 7,420千円
健診機器更新	20,000,000 円	自己資金
計	112,460,000 円	

がん検診車のデジタル化整備計画

平成24年3月31日現在

種別	保有台数	うちデジタル車保有台数	デジタル化	
			平成24年度	平成25年度
1. 胃検診車	5 台	3 台	1 台 (新規車両)	-
2. 総合検診車(胃・肺)	1 台	1 台	1 台 (新規車両)	-
3. 総合検診車(胃・肺・乳)	1 台	1 台	-	-
4. 肺がん検診車	10 台	2 台	2 台 (新規車両)	3 台 (撮影装置交換)
5. 乳がん検診車	2 台	0 台	-	2 台 (撮影装置交換)
計	19 台	7 台	4 台	5 台



平成25年3月22日現在

種別	保有台数	うちデジタル車保有台数	デジタル化	
			平成25年度	平成26年度以降
1. 胃検診車	4 台	4 台	-	-
2. 総合検診車(胃・肺)	2 台	2 台	-	-
3. 総合検診車(胃・肺・乳)	1 台	1 台	-	-
4. 肺がん検診車	10 台	4 台	3 台 (撮影装置交換)	残り3台の車両は 更新・廃車の検討
5. 乳がん検診車	2 台	0 台	2 台 (撮影装置交換)	-
計	19 台	11 台	5 台	

デジタル化整備計画の詳細

平成24年度

(1) 新規車両

胃がん検診車(デジタル) 2台(胃+肺併用)、(胃*2機搭載)

肺がん検診車(デジタル) 2台

計 4 台

(2) デジタル画像読影システム等の機器整備費用

(サーバー式、マンモ画像診断装置、胸部画像診断装置)

246,960 千円
(事業団負担額 123,480千円)

平成25年度

(1) デジタル化への機器整備費用(撮影装置交換)

肺がん検診車 3台(15号、16号、宝くじ号)

乳がん検診車(マンモ) 2台(おしどり1号、2号)

計 5 台

65,040 千円
(事業団負担額 32,520千円)

(2) 乳がん超音波装置 1台

整備費用合計

312,000 千円

(事業団負担額 156,000千円)